

## 学校評価(自己評価)公表シート

社会福祉法人アタラシイカタチ

幼保連携型認定こども園 やまとこども園

## 1. 本園の教育・保育目標

## 教育・保育目標

【生き生きとした子どもを目指して】

- ・ 丈夫で体力のある子ども
- ・ 元気よく友達と遊べる子ども
- ・ 自分のことは自分でできる子ども
- ・ 自分の主張をはっきりと言うことができ、みんなで力を合わせることを大切にする子ども
- ・ 自然に目を向けられる子ども
- ・ 感動し、驚き、疑問を持ち、考え、表現できる子ども

## 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

評価項目を設定し、それらに沿って自己評価を実施し、職員が主体性を持って客観的に自園の教育内容・保育内容をチェックし、重点項目について点検と改善に取り組む。

## 3. 評価項目の達成と取組み状況

評価項目	取組み状況
こども園の教育・保育理念や方針に沿って教育・保育課程を編成している。	職員で研修を行い、教育・保育過程の見直しを行いました。園の教育・保育理念に沿った全体的な計画となるよう作成しています。
指導計画は、教育・保育要領、教育・保育課程、子どもの実態などをもとに考えて作成されている。	指導計画の作成にあたっては、様々な研修を受けるとともに、クラスミーティングやリーダーミーティングで保育教諭間の保育実践の振り返りを行い、改善につなげています。
子どもの実態を的確につかみ、具体的な手立てを講じる。	保育教諭は、園児一人ひとりの日々の観察や記録をもとに振り返りを行い、理解を深めながら、援助や関わり方の見直しに生かしています。
各クラスの成果と課題を報告し、確認している。	毎月の月案・週日案で反省・評価を行い、その内容を主幹、副園長、園長と共有したうえで、職員会議やミーティングを通して職員全体にも共有しています。
子どもの良さを認めて評価しようとしている。	一人ひとりの園児理解を深め、その子のよさや可能性を大切にしながら評価しています。
遊びを通して工夫したり、協力したり	子どもたちが自分で遊びを選び、遊びを広げながら友達と協力

する姿が見られる。	したり工夫したりできるよう、環境づくりを工夫しながら取り組んでいます。
規則正しい生活習慣の定着に向けての指導を行う。	園生活の自然な流れの中で機会を捉えて支援し、園児自身が必要性に気付き、自分でやってみようとする気持ちをもてるようにしています。

教育・保育の質の向上のために、園内研修を充実させる。	毎月の職員会議において研修報告会を実施し、事例研究や取組に関する情報共有・意見交換を行っています。
園だよりや各種研修会を通して、子ども園の情報を発信していく。	日々の保育の様子をInstagramやコドモンで配信するとともに、園だより等で保育のねらいや内容を伝えています。さらに、ラーニングストーリーを作成し、実際の遊びや園児の学びの姿を具体的に発信しています。加えて、広報誌や地域の会議等でも子ども園の様子を報告するなど、園の取組について、より積極的な情報発信に取り組んでいます。
保護者のニーズの把握のために、要望や苦情に適切に対応をはかる。	年間2回の個人懇談、年1回の保護者アンケートの実施、保育参観、年3回の学校評議員会を通じて、保護者の考えを聞きながら園の考えも伝え、改善に努めている。 苦情に関しては担当を決めて対処している。

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

学校評価について、教職員が研修等を通して趣旨や意義を理解し、適切に自己点検・自己評価に取り組んでいることが確認できました。今後も日々の教育・保育を振り返りながら、改善を重ね、より充実した教育・保育の実施につなげていきます。また、各種の課題や目標についても、概ね達成できつつあります。
---

#### 5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
安全教育と安全管理	地震などの自然災害への対応と計画・準備、また不審者等への対応など、危機管理マニュアルの徹底と日頃の訓練を通して職員の意識の向上を図る。 ヒアリハット研修を通して安全点検を徹底し、安全教育に努める。
自己点検・自己評価	人権擁護のためのセルフチェックリストを使って一人一人を大切に保育の自己点検をし保育の見直しを心がけた。 今後も各職員においてさらに課題を設定し、自己研鑽に取り組むようにする。
指導計画の編成	研修等で知識やスキルの向上を図り、保育の実践をもとに振り返りを行い、子どもの実態に即した指導計画の立案を目指していく。